

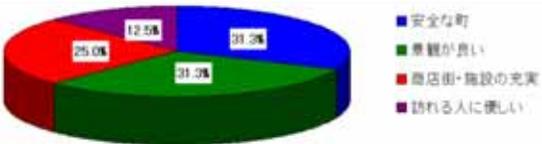
まちづくりの方向を考える

《地区計画の必要性》

目標を掲げたまちづくりは強い。柳町まちづくりの会(以下「まち会」と略す)としては道路拡幅を無事終わらせることが目標であり到達点としての認識はあったが、区としては、「都市計画道路の道路拡幅に係る協議だけでなく、柳町界隈の将来像を見据えた上で目標を掲げ、地区計画の提案、道路整備の協議等を進めていただきたい。区内の予算等の条件が揃えば、まちづくり相談員をまち会に導入する方向で考えたいと思う。」との説明があった。まち会としてもまちづくり相談員の支援いただけるのであれば地区計画の作成にも希望も持てると前向きな姿勢で応えた。まちづくり相談員の必要性は地区計画を含めた、まちの治安や景観や機能を将来に渡って向上させるのである。まちづくり相談員の費用は区側で予算等を鑑みながら検討していただけること。まち会としては、道路拡幅やまちづくり指導員導入をチャンスにして、より良いまちづくりをめざし、地区計画をもって魅力のあるまち並みを維持できたとしたら嬉しい。

アンケート結果

夏に回収したアンケート結果が発表された。どんな町にしたいか、という質問には「安全」と「景観」が多く、続いて「商店街の繁栄」を望まれている。新宿という土地柄「犯罪・事故」への心配は多い。又「商店街の充実」を望む意見の中には「活気の在る町」人の目が多く安全」という期待もある。どんなに綺麗に整備されたまちでも(層間は人が居ない・隣近所と接点が無い)なんて状況では困る訳です。その点、地元商店街があれば人目は多く、近所同士でのコミュニケーションの手段



試衛館 現在でも活躍中

市谷柳町二五番地に新選組局長近藤勇が道場を開いていたことを広める為に発足した同好会「市谷柳町試衛館」が、雑誌TVステーションの新選組コーナーの欄外で新選組イベントを紹介。又、東京商工会議所の発行する観光ガイド「ようこそ新宿へ」にも名前を載せ柳町付近の案内図にも試衛館跡地の文字が載り写真まで掲載されました。会津や流山で行われるイベントに参加し、十一月には二回のウォーキングを企画中です。

<http://www.asahi-net.or.jp/~gd8s-nki/shieikan/>

も模索できる。最後の「訪れる人に優しい」も情報のデジタル化を考える意見が含まれ、内外のコミュニケーションにも繋がります。このまちに必要なものは何か。という質問にも「安全」と「商店街の充実」が多くを占めています。ここでの「安全」には治安の他に道路づくりへの要望としてバリアフリー的な要素も含まれています。「商店街」の充実には利便性を多く求められています。(何でも揃うまち)とか特長ある専門店が実現すれば人の足はこのまちへ向く」という意見もありました。目立っているのが「集会場」を求める声です。コミュニケーションや情報収集をこのまちの人は求めています。また、(文化歴史・公衆便所)という意見はこのまちに足を運ぶ人を増やしたい、このまちの魅力を発見したいという意見とも思われます。子供に残したいまち並みとは。という質問には「景観」と「伝統・歴史」がトップ。これは長い時間かけなければ出来ないものですが、次の世代に残したいものなのです。「商店街繁栄」や「安全向上」は当り前とし、まち全体が高い意識を掲げないと出来ない。つまり、まちづくりの旗を掲げた今、議題に上げなければ二度と出来ない大切なものです。ここで掲げられた「景観」とは(緑化)、「伝統・歴史」とは大きく(祭りの存続と伝承)と(名所・史跡の存続(伝承)と(宣伝)となるでしょう。この結果はまちづくりの会参加経験者の集計です。

模型披露

早稲田大学理工学部の学生さんのご協力で作成された模型が披露されました。現在と拡幅後の景観の違いを検討できる様模型の一部が外せる工夫がなされています。今後の検討資料として活躍するでしょう。早稲田大学の皆さんありがとうございました。



早大学生製作

道路拡張とまちづくり

今回はまちづくりの定義を整理し、それを基に会を進めて行くこと一同の同意を得られました。道路拡幅を手始めにまちの将来像を地区計画という形にするまで会を続けていけるよう努力することになります。次回からは各自の希望をキーワード化して整理し、更に細かい内容に移る様進めていきます。

【第七回の日程】

十月六日(水)新浪漫亭二階会議室・夜七時より。住民の皆様の積極的な参加をお待ちしています。

「ご意見・ご質問などがございましたら町づくりの会事務局(川上) 三三四一・三三九七・八木(三三四一・九八七七)まで連絡ください。」